日韓青年プログラム

経過報告

これまでの日本と韓国の青年交流は、主に二〇〇四年まで一〇回行われてきた「日韓聖公会青年交流キャンプ」を通してでありました。会場を日本と韓国を毎年交互に換えながらキャンプが行われ、それらの交流を通して日韓聖公会の青年たちが出会い、共に祈り、共に学び、共に語り合いながら親睦を深めてきたのでありますが、昨年の韓国での第十回目のキャンプが一つの区切りとして交流の第一期の時代が終了しました。

二〇〇四年十月に福岡で行われた「日韓聖公会宣教協働二〇周年大会」の参加者によって共同声明が採択され、日本聖公会と大韓聖公会がこれからも継続して宣教協働をしていくことが確認されました。その中に、青年交流の継続も大切な宣教協働の一つとして声明の中にうたわれました。

日韓聖公会青年交流キャンプは日韓協働委員会が窓口になっていましたが、日本聖公会機構改革に伴って、今後は青年委員会が窓口になって青年交流プログラムが続けられていくことになりました。日韓の青年たちも今後はより主体性と責任を持って交流を続けていきたいという思いを持っており、そのような思いを持つ同志が集まり、今年の八月に大阪で「日韓聖公会青年同志の会２００５きずな」というテーマでキャンプが行われ、報告書も作成されました。青年委員会としてはそのような青年たちの気持ちも大切にしながら、改めて今後の日韓青年交流の方向性について協議をした結果、必ずしもこれまでのプログラムにこだわらず、東アジアの平和に向けた取り組みをふまえ、日本聖公会の宣教課題を担う人材を育成していくという観点でプログラムを考えていこうということになりました。十一月九～十一日の日程で韓国ソウルにおいて日韓青年交流の今後の方向性について協議の時が持たれました。会議の結果、今後の交流の方向性として日韓聖公会の宣教課題と連携して青年プログラムを検討していくという基本的概念をお互いに確認して、そのためにそれらの宣教課題を担ってくれる人材を育成していく必要があるので、リーダーシップトレーニング的なプログラムを行うことになりました。詳細についてはこれからですが、大枠として来年八月に日本で今後の日韓青年プログラム（のたたき台）を考えるセミナーを日韓合同で行う予定です。

（管区青年委員会委員／司祭　越山哲也）

日韓聖公会青年同士の会　二〇〇五「きずな」

八月八～十五日、表記の集まりが行われました。日本側からは七名、韓国側からは五名の青年が参加しました。この集まりが行われた契機は、昨年の日韓青年交流キャンプにあります。日韓青年交流キャンプは昨年まで十回行われていました。毎年、日本と韓国で、原則的に交互に会場を替え、主に歴史教育を通した相互理解と、親しい交わりを目的に行われました。このキャンプは当初からの計画の通り、昨年で終了したのですが、参加した青年たちの有志が「来年もやりたい」との熱い思いを持ち、有志企画で行われたのが、今回の集まりです。

大阪の川口キリスト教会を主会場として行われました。前半は主に協議を行いました。今までのキャンプの振り返り、今後の希望を話し合い、そして、共同の「声明文」を作成しました。これは来年度以降の管区青年委員会主催の日韓青年交流に活かしてもらうための提案が主な内容です。その後、場所を移し、京都で尹東柱（ユン・ドンジュ）の詩碑を訪ね井田司祭に解説を頂き、丁度京都で行われていた「無言館」（戦没画学生絵画展）の巡回展を見、京都観光をし、その後、奈良と京都で分宿し、それぞれの教会の礼拝に参加させていただきました。

私が思うに、「平和」を実現してゆくには、様々な「壁」を乗り越えてゆくことが必要です。今回の集いは、青年レベルで日本と韓国の間にある「壁」を乗り越えようとする働きであり、小さな平和への歩みだと思います。（京都／京都聖マリア教会　藤原健久）

管区青年委員会、全教区青年担当者のうごき

全世界の教区で青年活動の活性化検討へ

現在、日本聖公会では青年関係セクションとして、青年委員会（現在委員定数六名）が設けられ、各教区の青年担当者と連携して（具体的には年二回開催している全教区青年担当者の集い等）、様々なプログラムの企画やコーディネーション等を行っている。

現在恒常的に行っている委員会活動の他に、協議事項として以下のものが挙げられる。

（一）各教区における青年活動の活性化の方策の検討。具体的には、数年前より管区機構改変に伴って作られた教区青年担当者について、その役割を明確化し、いずれは専門的なユースコーディネーターとして位置づけられるようなものとしていけないかを検討中。また、各教区において青年の日を設ける等、教区において青年活動を重視し、合わせて青年活動の財政的な裏付けを得るための方策を検討。

（二）〇七年には全聖公会国際青年大会が予定されており、その参加方法や大会でのアジェンダを日本の青年たちとどう共有するか等について協議している。

（三）〇八年に全国青年大会の開催が見込まれている。大会に向けてどのような運営形態が考えられるかについての検討を初めている。

（四）日韓青年プログラム。長年日韓協働委員会が担ってきたが、機構「改革」により日韓協働委員会がなくなり、当委員会が担うことになった。（上記参照。）

（五）辺野古。沖縄教区と正義と平和委員会と協力して、青年を辺野古に送るプログラム（一面参照）。刻々と変化する情勢に対応して効果的な支援策を検討。

（六）学生青年運動エキュメニカル協議会の開催。

どの議題も、日本聖公会のミッションを担う各教会が活性化されていくために、いかに人を育てていくか、という視点で議論が行われている。

なお、六月にイギリスで行われた第一三回全聖公会中央協議会（ＡＣＣ）では、全管区及び教区に対し、青年活動の更なる検討と必要な予算措置を求める決議がなされた。青年委員会では上記のような形での検討を行っているが、今後各教区での積極的な議論がさらに期待される。

〇七年には全聖公会国際青年大会が開催され、〇八ランベス会議の議題を青年たちで協議することが検討されている。性的多様性に関する様々な混乱、深刻な貧富の格差の拡大、グローバル戦時体制、エキュメニカル運動などが議題として予想されるが、私達の信仰／生活に直結するこうした聖公会のグローバルな動きは、もっと青年達と共有されてよいはずだ。

ことに、東アジアで日米を軸にして起きている平和をめぐる問題について、日本の立ち位置は極めて重要である。長崎での青年大会の開催等、日本の青年たちの経験から、世界に発信していけることもたくさんあるのではないか。（全国ネット事務局／相原太郎）

青年プログラム参加助成制度

管区青年委員会では、青年が、何らかの研修等に参加する際に、青年自身が、青年委員会に申請することにより、研修費用等の一部が補助されます。（ネットワーク事務局が窓口。）日本聖公会の青年たちが、キリスト教内外の様々なプログラムに参加し、その経験を日本聖公会、特に青年活動に活かすことを目的とするもので、今までも青年委員会では、エキュメニカル（超教派の）プログラム等に参加する青年に補助を出してきましたが、それをより充実させるために始まりました。詳しくは、ホームページに掲載。

発行所　日本聖公会全国青年ネットワーク事務局
名古屋市昭和区宮東町260名古屋学生青年センター内
tel 052-781-0165 fax 052-781-4334
e-mail youth.po@nskk.org
web http://www.nskk.org/province/youth/